

第10回臨時委員会会議録

教 育 長) 開会宣言

教 育 長) 会議成立の宣言

教 育 長) 会議録署名委員の指名（浅井委員）

教 育 長) 本日、傍聴者はおられますか。

早速、審議に入りたいと思います。

それでは、審議に入ります。

日程第1、第16号議案「市立幼稚園での3年保育の実施について」を議題とします。

本議案については、8月2日の第1回総合教育会議において、市長と教育委員会で意見交換を行い、令和3年4月から1園で試験的に実施するという方向性について確認および合意をして、その後の第8回教育委員会定例会においても、再度、方向性を確認しているところです。

私から事務局へは、どの園で、どの規模で行うかの整理をお願いしており、このたび議案として上がってきたので、その内容について審議していきたいと思います。

本日は、実施園や定員、クラス編制など試験的に実施していくに当たり、教育委員会としての方針を決定していければと考えておりますのでよろしくお願いします。

それでは、提案説明を求めます。

管 理 課 長) <議案資料に基づき概略説明>

教 育 長) 説明が終わりました。質疑はございませんか。

越 野 委 員) 今回、1園を選ぶということで、今後3年保育を拡充するの

かどうかにも大きくかかわってくると思いますので、本当に慎重に選んでいく必要があると思います。試験的に実施する1園は、先ほども御説明があったとおり、教育ニーズの高い地域ということであれば、やはり山手地域がいいのではないかと思います。

しかし、岩園幼稚園で行うということですが、資料1を見させていただくと、現在、岩園地域では、市内の私立幼稚園に通っている3歳児が24人おり、他の園に比べても1番人数が多い状況です。そのため、3歳児の取り合いになってしまうのではないかという心配があります。また、令和4年には朝日ヶ丘の認定こども園が開園することもあり、岩園地域には3歳児の選択肢がたくさんあると感じております。ですので、周りに私立幼稚園の少ない西山幼稚園での実施の方がいいのではないかと思います。また、西山幼稚園地域での「その他」の年齢の人数ですが、3歳児の「その他」が67人もおり、とても多いと思います。その中には、在宅しているお子さんばかりではなく、3歳の間は幼児教室で過ごされている方もたくさんいらっしゃいますので、この67人の中に公立での3歳のニーズがあるのではないかと思います。どうでしょうか。

管理課長) まず、岩園地域で3歳の取り合いになるのではないかということについては、市内私立幼稚園の就園者の人数が確かに多くなっております。立地的には、みどり幼稚園や芦屋大学附属幼稚園、甲陽幼稚園などに通いやすい地域ですので、実際に数が多くなるのは、ある程度このような結果となります。

取り合いになるのではないのかということにつきましては、

先ほど説明の中でも申し上げましたが、現在、岩園幼稚園で4歳児は53人来ていただいております、当然この人数を超えるような定員枠で設定するとなりますと、私立幼稚園への影響も大きく考えられますが、1年早く来ていただける枠として一定25人となっておりますので、取り合いはそこまで起こらないのではないかと考えております。

そして、朝日ヶ丘に認定こども園ができるということにつきましても、定員は20人で事業者が予定されております。ですので、岩園幼稚園に朝日ヶ丘の園区である朝日ヶ丘町、東山町から来ていただいている方もいらっしゃいますが、そのような方も朝日ヶ丘に流れることも考えられますが、今のところは25人という枠の中で、何とか取り合いすることはないのではないかと考えております。

最後に西山幼稚園につきましては、「その他」の67人についての内訳はわかりませんが、委員ご指摘のとおり、幼児教室やインターナショナルスクール、そして1年間、西山幼稚園への入園待ちの方がいらっしゃるという数だと理解しております。今回3歳の受け皿をつくることによって、どの程度の園児数を受け入れていくかになります、市外の幼稚園に行かれています方を、市内の同じ小学校に通っていただくために市内の幼稚園に通っていただきたいための受け皿を考えております。まず、市外の私立幼稚園に通われている方の数字を意識して検討していく必要があるだろうと考え、今回の事務局の案という形でお示しさせていただいているところです。

越 野 委 員) 市外に通われている園児の数ですが、現在、岩園は市外

16人、西山は13人となっており、3人程度の差となっております。3歳児の総数が全体的に多ければ、周りに幾ら私立幼稚園やこども園があろうと、取り合いになる心配もないと思います。今後の見込みとして、次に3歳児になるお子さんで西山と岩園地域の0歳児と1歳児の人数は把握されているのですか。

管理課長) 申し訳ございません。今、圏域で把握している数字は持っておりますが、園区ごとの数字は持っておりません。当然、少子化ですので、若干ではあります、年を追うごとに減っていく傾向はございます。それが園区ごとにどのような傾向になっていくかについては把握しておりません。

管理部長) 今回の資料では、通園区域を設定しているのですが、もともと芦屋には園区がありませんので、通園区域として何か設定しないと地域性が出ません。西山幼稚園は16町ぐらいあります。山手幼稚園がなくなったので、奥池から南は清水町や前田町、大原町の手前までと、広がっております。

そのような意味では、数字的には西山幼稚園がおのずと多くなってしまう傾向にあり、仮に設定したその地域が広がってしまいます。

越野委員) 奥池まで入っています。

管理部長) 奥池も形としてはそうせざるを得ないです。

教育長) 試験実施をしたら、その判断はいつ反映するのかという思いを持たれると思います。教育委員会としては、3歳児の教育ニーズは幼稚園と保育所のあり方の形が完成する時期に、改めて3歳児の教育について考えますということで議会に答弁してきました。ですので、そこではその時期を待つということです。

が、その前に幼稚園として、3歳児の受け皿として教育がどのような形でできるのか、どのようにしていけるのか、また幼稚園のあり方が無償化等で大きく変わってきましたので、そこで判断する材料として試験的に実施することは非常に意義深いものだとは認識しております。

各幼稚園および各地域におかれましては、それぞれ実施してほしいという強い要望が出るのは当たり前だと思っております。根本的な考え方としては、教育委員会は3歳児の教育に対して何もしないというのではなくて、判断材料が出せるよう、今、試験的に実施するという事です。ほかの幼稚園に対しても、そのときに判断をしていくための基礎材料として提供するものだと考えております。いろいろな思いが、各委員胸中にあると思いますが、やはり幼稚園と小学校が隣接している就学前の施設として、これから幼稚園のあり方が問われる中において、大局的な形で判断していくべきものだと考えております。そういう形で教育委員会としても、今回の案を御審査していただきたいと思っております。

小石委員) やはり試験的に実施するのは、逐次評価をし続けていくことが必要ですので、終わってから評価するのではなく、どのように逐次評価するかだと思います。どうすればよりよくなるかも含めた評価が継続的に行っていただきたいと思っております。

浅井委員) 私もいただいた資料を見たところ、市内では3歳児の教育が中部の東側、北部の西側に少ないとは思っておりました。しかし、今春、精道こども園がオープンしたことから、幼稚園の3年保育については、山手圏域で考えるのが適当ではないでし

ようか。いろいろな数字から、それはおおよそ皆さんの考えの一致するところだと考えます。西山幼稚園も山手圏域ですので、候補の1つかとは思いますが、岩園幼稚園でさんさんひろばの実績が高く、18組の方が参加されていることと、リニューアルして、施設の受け入れが一番やりやすい形であるということで、岩園幼稚園が適当であると、総合的に考え、私自身の結論として出ました。

教 育 長) 他に質疑はございませんか。

無いようですので、これをもって質疑を打ち切ります。

これより採決いたします。本案は、原案どおり市立幼稚園の3年保育の試験的な実施についての方針を決定することに御異議ございませんか。

〈異議なしの声〉

御異議なしと認めます。よって本案は可決されました。

〈第16号議案採決。結果、可決（出席委員全員賛成）〉

教 育 長) 閉会宣言